



障がい当事者として 「共感と自己矛盾を生きる」

大堀尚美

津久井やまゆり園から一年。誰にでもある心の底の差別・偏見が表面化したと感じます。容疑者は自己愛性パーソナリティ障害です。国はこの事件により「治安維持」の名目で、精神保健福祉法を改正しようとしています。しかし犯人に事件の責任能力があるかもしれず、国はこの事件が法改正の立法的根拠であることを取り下げました。精神障害者＝犯罪を犯す人の様な差別・偏見を助長している印象を与えていることに憤りをもち反対表明をします。

差別は自分の中にもあり、ピアの仲間と向き合う時に自分が一番試される時だと思います。精神障がいの生きづらさは、障害名・病名が同じでもひとりひとり違います。生活のしづらさを理解し合いたい。でもその一方で常に「精神障がい者」としてだけ理解されることは苦痛です。障がいのある人の前に一人の人間だから。常に「内なる差別や偏見」で葛藤するのは障がいのある私たち自身でもあります。それがあからこそ他者への共感や理解が生まれると思います。人のちょっとした間違いや失敗をあげつらい、徹底的にやり込めて、過ちを許さない様な風潮は、障がいの無い人にとっても生きづらい社会なのかも知れません。権利は「自分の権利」だけではなく「他者の権利－他者の尊厳を尊ぶ」の両方があるからこそその権利だと思います。10月のピアサポート研修では「障害のある人の権利－他（た）のもの（障がいの無い人）との平等」と、「人と支え合うために必要で大切なこと」を考え、日々活かせる学びをしたいと思います。

長野県ピアサポートネットワーク 総会・交流会が開かれる

平成 29 年 4 月 22 日（土）、松本市中央公民館 M ウィング 3 階会議室にて、総会が行われました。

総会では、大堀尚美代表の挨拶に続き、ご来賓の方々からご祝辞・メッセージをいただきました。長野県健康福祉部保健・疾病対策課 課長 西垣明子様と、松本市健康福祉部障害福祉課担当係長 宮澤亘様からのご祝辞、長野県精神保健福祉センター所長 小泉典章様からメッセージ(代読)をいただきました。長野県精神科病院協会前会長 現理事 渡辺啓一様より、お互い支え合うことは大変大事なことで、薬物依存の自助グループなどで同じ病を持った人からのメッセージを受けると障がい者の心に沁みるといふ、ピアサポートを支持して下さるメッセージをいただきました。他に、長野県精神保健福祉士協会副会長 小堀福子様、また特定非営利活動法人長野県精神保健福祉会連合会 (NPO ながのかれん) 理事長 榛葉智明様からは、こういう場に出てこれない人もいるとのご指摘、せいしれん 小澤孝二様からは、長期入院患者 3 万人の地域移行にピアサポーターが活躍していく場があるとのメッセージ、きょうされん長野支部事務局長 松澤重夫様からネットワークづくりが大切とのメッセージをいただきました。

引き続き、上田市地域活動支援センターカナン理事長の高橋明氏を議長に選出し、審議に入りました。平成 28 年度事業報告、収支報告に続き、平成 29 年度事業計画案、予算案について意見を求めたところ、満場意義なく承認可決されました。続いて役員体制案について紹介があり、満場意義なく可決されました。

より一層当事者同士の交流を図り、互いにエンパワメントし合う（生きる力を支え合う）関係性を作っていくことを本年度の目標といたします。皆のネットワークとして一層活動が広がるよう、努めてまいります。



大堀 尚美 代表



ご来賓の方々



県保健・疾病対策課
課長 西垣 明子様



総会議長 高橋 明様